

## 第107回全国高等学校野球選手権宮城大会

□大会第11日目 7月21日(月)

準々決勝	石巻市民球場	2時間	30分	打安点盗犠四三残失併
仙台育英	0 0 1 0 0 0	2 0 0	2 0 0	【仙】 31 8 2 0 2 1 5 4 1 0
東北	0 0 0 0 2 0	0 0 0	0 0 0	【東】 34 7 1 0 1 0 10 6 1 0
( 延長10回タイブレーク )				
(球) 水戸 恭平 (一) 佐藤 拓哉 (二) 毛利 晃 (三) 野田 学				
【仙】 吉川 一 川尻	▽本塁打 なし			
【東】 川原,堀江 一 越田	▽三塁打 引地(東)			
▽暴投 なし	▽二塁打 土屋,川尻 (仙) 笠,川原2,引地 (東)			
	▽捕逸 越田1(東)			

## 【評】

準々決勝第1試合は宮城県の高校野球伝統校の対決、仙台育英対東北となった。好投手を要する両チームのため、接戦が予想された。3回に仙台育英が四球から犠打、相手のエラーから先制すると、東北も5回長打と相手のエラーから2点を返した。その後、7回に仙台育英が4長短打から2点を返し、9回まで互いに一步も引かない好ゲームとなった。

両チームともここぞという時の集中力とプレーのレベルが高く、宮城の高校野球のレベルの高さを表す試合であった。

準々決勝	石巻市民球場	2時間	50分	打安点盗犠四三残失併
仙台第一	0 1 0 1 0 0	1 0 0	1 0 0	【仙】 31 9 4 2 5 5 6 9 2 3
古川学園	2 0 0 0 0 0	0 0 0	0 0 1 1	【古】 35 10 2 0 3 2 7 8 2 0
( 延長10回タイブレーク )				
(球) 浅野 卓也 (一) 西山 充 (二) 新田 健治 (三) 藤村 一也				
【仙】 藤田 一 金子	▽本塁打 なし			
【古】 櫻井琉,菊地 一 伊藤,佐藤	▽三塁打 なし			
▽暴投 菊地1(古)	▽二塁打 金子,島貫2 (仙) なし (古)			
	▽捕逸 なし			

## 【評】

ベスト4進出を狙う実力校同士の試合はタイブレークにもつれ込む激戦となった。先制は古川学園、初回の連打から敵失と併殺の間に2点を先制した。対する仙台第一は2回7番島貫の適時打、4回9番藤田の犠飛で同点とすると、7回には盗塁と送球エラーの間に逆転に成功した。粘る古川学園は9回2死1・3塁から9番櫻井のタイムリーで追いつき、試合は延長戦へ。10回表仙台第一は走塁死の後に3番川村のヒットでチャンスを拡大すると、4番水上のタイムリーと5番安斉のスライズで2点を勝ち越した。後攻の古川学園は、先頭打者が四球で無死満塁とするも、3番菊地の犠飛の1点に留まり、最後は併殺打で試合終了となった。仙台第一の先発藤田は139球の粘投。1点を争う好ゲームは伝統校の仙台第一が勝利した。

準々決勝	石巻市民球場	2時間	29分	打安点盗犠四三残失併
利府	2 0 0 0 0 0	0 3 0	0 3 0	【利】 31 7 4 0 2 4 5 5 2 2
東陵	0 0 1 0 3 1	1 0 X	1 0 X	【東】 29 7 5 2 3 8 9 10 0 0
( 11:01~11:07 )				
(球) 曾根徳明 (一) 佐藤圭 (二) 村上大輔 (三) 細川和行				
【利】 中澤,佐藤堅 一 大倉,佐藤利	▽本塁打 佐藤利(利),赤間(東)			
【東】 幸,赤間 一 地紙	▽三塁打 なし			
▽暴投 中澤2(利)	▽二塁打 なし (利) なし (東)			
	▽捕逸 地紙1(東)			

## 【評】

第3シード東陵対第5シード利府の決対決となった。利府は1回表、2死1塁から4番佐藤利樹の右越え2点本塁打で先制した。追う東陵は、3回裏無死満塁から遊撃ゴロ併殺の間に1点を返した。5回裏には、1死満塁から3番赤間の右越え3点本塁打で逆転した。6回裏には、利府の中沢投手が疲れからか制球を乱し、安打と2四球で2死満塁から2番石渡に押し出しの四球を与えた。7回裏には、1死2塁から6番菊田が右前適時打で、6点目をあげた。8回表利府は、四死球と3安打で3点をあげ、1点差まで追いつけたが、6対5で東陵が逃げ切った。

準々決勝	石巻市民球場	2時間	13分	打安点盗犠四三残失併
東北学院榴ヶ岡	0 0 0 3 0 0	0 0 0	0 0 0	【東】 29 6 2 0 3 2 8 4 2 0
仙台商業	1 0 0 0 0 0	0 0 0	0 0 0	【仙】 32 4 1 1 1 1 8 6 1 1
( )				
(球) 布田秀斗 (一) 鶴田代志昭 (二) 浅野雅訓 (三) 邊見豪志				
【東】 伊藤,佐々木健 一 佐々木大	▽本塁打 なし			
【仙】 井口 一 道下	▽三塁打 なし			
▽暴投 伊藤1(東)	▽二塁打 なし (東) なし (仙)			
	▽捕逸 なし			

## 【評】

ベスト4最後の一枠をかけての一戦、先制したのは仙台商であった。初回到安打で出塁した走者を犠打と暴投で進め、二死三塁から4番道下の適時打で1点を奪った。しかし迎えた4回表、東北学院榴ヶ岡が無死満塁の好機を作り、犠飛と適時打に相手の失策を絡めて一挙3点をもぎ取った。逃げ切りを図る東北学院榴ヶ岡は、5回から背番号1佐々木健斗がマウンドへ。佐々木は内角への直球が冴え、相手打線を寄せ付けず僅か1安打の無得点に封じた。仙台商の井口は9回131球の熱投であったが、打線が援護できなかった。